

心の輪を広げる体験作文 高校生部門 優秀賞

「わたしのかぞく」

神奈川県立相模原中央支援学校 高等部二年 伊藤 優芽

いとう ゆうめ

わたしは、生まれた時から一人で立つことや歩くことができず、車いすにのっています。手もうまく使えないことが多いです。そんなわたしはちいさいころからずっとママと二人でくらしていました。ママは保育士をしていて忙しかったけど、休みの日には二人でたくさんでかけたり、学校の行事はいつもかならず来てくれました。

小学校はエレベーターのある学校まで行っていて遠かったのですが、行き帰りの車の中で、その日の学校での楽しかったことを話したり、ママの話を聞いたり、いろいろなことをたくさん話しました。

たまに「イケメンのパパがいたらいいね」と話したこともありました。

小学校六年生の時、ママからはじめて好きな人ができたとそうだんされました。ママの好きな芸のう人は、細い人なのに、その人と会ってみたら、全ぜんちがうタイプの人で、びっくりしました。

中学一年生の時、足の手じゅつをすることになり、三ヶ月入いんをしました。ママは毎日仕事でつかれているのに、おわってからよこはまの病院まで来てくれました。これるのが毎日夜おそかったので、その人がいつも先にきて、ごはんを食べるのを手伝ってくれました。

わたしはいつのまにか、「父ちゃん」とよぶようになったっていました。それから、休みの日には、父ちゃんにいろいろな所につれていっ

てもらいました。ママと二人の時も、ママにもちあげてもらいながら、てつぼうをしたり、おんぶをしてもらって山のぼりをしたりして、まわりの子と同じように、いろいろなことにちようせんしてきました。でも、わたしの体もだんだん大きくなってきて、ママ一人だとむずかしいこともふえていました。父ちゃんがいてくれると、できなくなっていたアスレチックをやらせてくれたり、車いすで行けない所もだっこでつれていってくれたりしました。わたしも、父ちゃんといるのがだんだん楽しくなってきた、父ちゃんだったら、ママとけっこうしてもいいかなと思うようになりました。それからしばらくしてママとけっこうこんして、わたしのパパになってくれました。

ある日、二人によばれ「ママのおなかに赤ちゃんがいるよ」と言われました。ドッキリかと思って信じないでいたら、ちっちゃなたまごみたいなエコーの写真を見せてくれて、本当におどろいたけど、前から、妹か弟がほしかったのですごくうれしかったです。

赤ちゃんの成長が楽しみで、毎月ママのびょういんには三人で一緒に行きました。

エコーでおがわかるようになると、パパにそっくりで大わらいしました。生まれてみると、妹はエコーのままのかおで、またわらってしまいました。

妹は生まれてすぐにNICUに入ることになりました。肺の中に羊水が残ってしまい、うまくこきゅうができなかったからです。親しかNICUの中に入れず、二週間会えなくてさみしかったです。わたしは毎日妹をビデオで見っていました。

たいいんのむかえに行ったときは、すごく小さくて、さわるのが

こわかったけど、毎日だっこしていくうちになれて、今は毎日だっこしたり、一緒にあそんだりしています。わたしが学校に行く時は、ひざにのせて一緒に教室まで行くのがうれしかったです。

妹が一才になって、成長がはやくととてもびっくりしています。

たくさん歩くようになったけど、その分あぶないこともふえて、わたしとあそびたいと車いすによじのぼったり、わたしのもっているものをほしがったり、いたずらもふえて大変で、毎日ヒヤヒヤするけど、できることもたくさんふえて、何をするかわからないところが見ていておもしろくて、本当にかわいいです。

しゃべることもふえてきたので、これからの妹の成長が楽しみです。